

小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主催 奈良歴史遺産市民ネットワーク

事務局 〒630-8306 奈良市紀寺町883-4

TEL・fax 0742-23-3934 小宮みち江

講師 小笠原好彦氏 滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会代表委員

講座会場 奈良県教育会館 **開講13時30分(開場13時)** (奈良県文化会館西隣 近鉄奈良駅より徒歩5分)

参加資料代 500円



11月14日(火) 《古代の^{ずしゅりょう}図書寮とその役割》

古代に国家として、行政に必要とした重要な図書、経典を保管し、書写したのが図書寮です。図書寮は、いづれは国家が歴史書を編纂することを想定し、その資料を収集し保管するとともに、各省が運営する上で必要とした紙・筆・墨を配布することも職掌として担っていました。この図書寮が果たした役割を考えてみます。

12月12日(火) 《平城京三坊大路と出土した告知札》

平城京の左京に設けられた三条大路は、ウワナベ古墳の東を通り、山背に抜ける古代の重要な道でした。それだけに往来する人々も多い道でしたので、しばしば逃走した馬を探す立て札(告知札)が立てられました。その立て札を読みながら、古代の告知札の意義を考えてみます。

2024年

1月16日(火) 《古代の国司と任国での着任儀礼》

各国に任じられた国司は、いずれも中央から任国へ派遣されました。派遣された国司は、それぞれの国に入国する際には、所定のきまりがありました。しかも、自らが担当する任国へ入る時から、また着任後にすべき多くのしきたり、作法、儀礼が待っていました。その実態を、平安時代に残された日記『時範記』をもとに、少し遡って考えてみます。



【越中国庁址】碑塚(越前市・大野町)

※コロナの感染状況により休講とする場合があります。ご了承ください。

※引き続き 新型コロナの感染予防にご協力をお願いします。

☆☆☆ 事前の申し込みは要りません。どなたでも参加できます ☆☆☆